

1. 法人の概要

名称 学校法人 大阪城北学園（昭和59年8月29日法人設立）
代表者 理事長 山口 義人
住所 吹田市藤が丘町9番23号
電話 06-6385-4844
FAX 06-6385-4850

設置する学校

住所 吹田市藤が丘町9番23号
名称 藤ヶ丘幼稚園
役員 理事 7名 監事 2名
評議員 15名
理事会 4回開催
評議員会 3回開催
職員 10名

2. 事業の概要

（ 藤ヶ丘幼稚園 ）

《教育内容》

神の愛と人の愛を深く知り、体験でき、さらに、さまざまな機会を通して自律心を育てる。きびしい現実の社会生活の中で、確たる人生の土台の形成を目指している。

	3歳児		4歳児		5歳児		クラス数計	園児数計
	クラス数	園児数	クラス数	園児数	クラス数	園児数		
定員	1	-	1	-	1	-	3	45
2021年度	1	11	1	26	1	25	3	62
2022年度	1	8	1	12	1	25	3	45
2023年度	1	15	1	10	1	12	3	37

《保育時間》

月・火・木・金曜日 午前9時～午後2時
水曜日 午前9時～午前11時30分
日曜日 午前9時20分～午前10時20分
土曜日 休園

《納付金》

保育料 年額336,000円（12分割均等納付）
弁当 週4回

《入園時の費用》

入園料 60,000円

《預り保育内容及び費用》

月火木金曜日 午後2時～午後5時30分 200円～700円
水曜日 午前11時30分～午後5時30分 500円～1100円
夏冬春休み中の預り保育はなし

《行事实施状況》

自らを表現し、やってみようとする意欲、自主性・自信を育てるため、さんびかを歌い礼拝、遠足、運動会、クリスマス礼拝、生活発表会、プールなど

《施設関係》

園地面積 811.6㎡ 運動場面積 413.0㎡

《設備関係》

幼児バス器具の購入

《事業報告》

日本では、新型コロナウイルスの影響による婚姻率（人口千人当たり件数、2015年～19年の平均4.9から、20年4.3、21年4.1）の低下、また、2022年の出生数が79万9千人（日本人の確報ベースでは77万人）と超少子化が進んでいる。政府は、出生率を反転させるため従来と次元の異なる少子化対策の実現を表明し、4月に子ども家庭庁をスタートさせ、「こども未来戦略会議」を開催し、6月までに将来的なこども・子育て予算の倍増に向けた大枠を示す決意を改めて表明した。

しかし一方では、養成校からの推薦者や受験志願者が送られてこないという状況が続いており、教職員採用が厳しい状況となっている。府内の養成校においては、募集定員を大幅に割り込み、学園存亡の危機を迎える状況となっているので、採用不安の解消は程遠い状況である。また、第211回国会において、私立学校法の改正が可決され、「執行と監視・監督の役割の明確化・分離」の考え方から、評議員・評議員会の権限強化の見直しを中心に寄付行為の全面改訂の手続きが予定されている。

2015年4月より子ども子育て支援新制度がスタートしたが、新制度への移行が進み、2023年4月の段階で6割近い園が移行している。他160園が私学助成で事業の継続を予定しているが、当園では園児減少の改善をはかるため2022年度をもって私学助成による運営をやめ、2023年4月より新制度へ移行することを当学園理事会・評議員会で決定した。

自己評価については、確実に実施し公表しているが、その自己評価の内容を、学校関係者評価委員会で十分検討して頂き、別紙のとおり纏め公表に努めた。

財務面では、事業活動収支計算書より、教育活動収入計が45,624千円（対前年比1.15%、45,107千円）、教育活動支出計44,729千円（対前年比▲6.99%、48,090千円）、教育活動収支差額894千円（前年度▲2,983千円）、教育活動収支差額比率1.96%（前年度▲6.61%）、経常収支差額比率1.96%（前年度▲6.61%）の経営状況となった。

また、人件費比率（人件費／教育活動収入計＋教育活動外収入計）は、74.33%（前年度82.16%）となり、前年度より低下した。

翌年度繰越支払資金は、当年度の保持すべき資金（第4号基本金）の額を相当上回る額の支払資金を保持できているので、資金繰りは問題ない。

3. 財務状況

別紙参照。

4. 財務状況

学校法人 大阪城北学園

資金収支計算書

(単位:円)

科目	2022年度
学生生徒等納付金収入	17,361,000
手数料収入	0
寄付金収入	2,115,000
補助金収入	21,228,000
資産売却収入	0
付随事業・収益事業収入	2,637,190
受取利息・配当金収入	734
雑収入	2,282,813
借入金等収入	0
前受金収入	570,000
その他の収入	11,252,377
資金収入調整勘定	△ 765,682
前年度繰越支払資金	36,420,861
収入の部合計	93,102,293
人件費支出	33,208,979
教育研究経費支出	3,684,321
管理経費支出	4,929,639
借入金等利息支出	0
借入金等返済支出	0
施設関係支出	0
設備関係支出	1,485,000
資産運用支出	705,863
その他の支出	11,263,860
資金支出調整勘定	△ 769,183
次年度繰越支払資金	38,593,814
支出の部合計	93,102,293

事業活動収支計算書

(単位:円)

科目	2022年度
学生生徒等納付金	17,361,000
手数料	0
寄付金	2,115,000
経常費等補助金	21,228,000
付随事業収入	2,637,190
雑収入	2,282,813
教育活動収入計	45,624,003
人件費	33,914,842
教育研究経費	5,744,328
管理経費	5,070,767
徴収不能額等	0
教育活動支出計	44,729,937
教育活動収支差額	894,066
受取利息・配当金	734
その他の教育活動外収入	0
教育外活動収入計	734
借入金等利息	0
その他の教育活動外支出	0
教育外活動支出計	0
教育活動外収支差額	734
経常収支差額	894,800
資産売却差額	0
その他の特別収入	0
特別収入計	0
資産処分差額	0
その他の特別支出	0
特別支出計	0
特別収支差額	0
基本金組入前当年度収支差額	894,800
基本金組入額合計	△ 1,485,000
当年度収支差額	△ 590,200
前年度繰越収支差額	4,285,047
基本金取崩	0
翌年度繰越収支差額	3,694,847
(参考)	
事業活動収入計	45,624,737
事業活動支出計	44,729,937

貸借対照表

(単位:円)

資産の部	
科目	2022年度
固定資産	20,447,662
流動資産	38,834,896
資産の部合計	59,282,558
負債の部	
科目	2022年度
固定負債	2,997,045
流動負債	1,453,761
負債の部合計	4,450,806
純資産の部	
科目	2022年度
基本金	51,136,905
繰越収支差額	3,694,847
純資産の部合計	54,831,752
負債及び純資産の部合計	59,282,558

財産目録

(単位:円)



1. 資産総額	59,282,558
I 固定資産	20,447,662
II 流動資産	38,834,896
2. 負債総額	4,450,806
I 固定負債	2,997,045
II 流動負債	1,453,761
3. 正味財産	54,831,752

監 査 報 告 書

2023年 5月 26日

学校法人 大阪城北学園
理事会・評議員会 御中

学校法人 大阪城北学園

監 事 山根良寛 
監 事 坂本由美子 

私たちは、学校法人大阪城北学園の監事として、私立学校法第37条第3項及び寄附行為第16条に基づいて同学園の2022年度（2022年4月1日から2023年3月31日まで）における業務及び財産の状況について、理事会その他重要会議に出席するほか、理事長から学校運営の報告を聴取し、重要書類を閲覧し、会計監査人から報告説明を受け、事業報告書及び計算書類等を調査いたしました。

監査の結果、私たちは、同学園の業務及び財産の状況に関して不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実は認められませんでした。

また、財務に関する計算書類は学校法人会計基準に準拠しており、学校法人大阪城北学園の2023年3月31日現在の財務状態及び同日をもって終了する会計年度の経営状況を適正に表示しているものと認めます。

（注）監事山根良寛及び監事坂本由美子とも私立学校法第38条第5項に定める外部監事であります。

1. 本園の教育目標

※キリスト教精神に基づく保育

子どもは親や保育者に愛され、大切にされることによって自分がかげがえのない存在であることを認識します。神があるがままの私たちを受け入れてくださるように、保育の中でも、子ども一人一人を愛し、尊重し、育んでいきます。

※自由保育

自由保育とは、子どもたちが自らやってみようとする心情や意欲を大切にしながら、遊びを通して発達に必要なことを身につけていくことができるように援助し、幼児の主体性を育んでいく保育です。教師は、子どもが何をしたいのか、そこで何が育っているのか、今、何が必要かをその都度見極め、少しずつ積み上げていけるよう育ちの過程を大切にしながら保育します。子どもたちが自由に遊びこめる時間と空間を確保した自由活動を中心に加えて、みんなで集まってひとつの活動をする設定の時間も取り入れながら様々な経験ができるように配慮しています。

2. 本年度 重点的に取り組む目標・計画

☆本園の寄付行為にあるように、神に仕える精神を教職員の共通理解として具現化できるように、毎朝の祈祷会や日曜日の礼拝出席などを通して、神様と出会う機会を作る。

☆キリスト教精神に基づく保育、自由保育という教育理念を実現するために、カリキュラムの検討と作成を行う。毎月、月案と週案を教師全員で検討、確認し、園児の今の姿を十分に把握しながら更に保育の質を高めていく。

☆保護者の意見、要望、ニーズを大切にしながら、共働き化など時代状況に合わせた対応がなされている園であるよう、今後の保育形態（長期休暇の預かり保育の充実や給食の導入等）について検討・実施する。

☆減少傾向にある園児獲得の為、ホームページの充実だけでなく、自園の子どもの姿を通し園の特色や保育内容が伝わるよう、園内外の方々に今まで以上に発信する。

☆近年発生回数の多い災害や防犯対策の強化として、園児の安全を第一に作成されたマニュアルを元に、様々な想定される訓練を実践していく。

☆AEDなどを使った職員の救命救急の訓練を行う。

☆新型コロナウイルス感染対策として、常に情報を獲得しながら、可能な限り保育を停滞することがないように、保育内容や計画を立て、安心して園生活を過ごせるように配慮する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
<p>幼稚園の寄付行為及び保育目標の共通理解をする。</p> <p>本園の保育目標を実現するためのカリキュラムの検討</p>	<p>本年度はじめの教師会は新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応に追われながらも、再度当園の教育理念および保育目標において研修会や教師会で話し合いを行い、共通理解を深めることが出来た。</p> <p>年間、月案、週案を徹底的に検討し、計画を立て、毎月の教師会において相互に確認し合い、新型コロナウイルス感染予防対策を含め、振り返りを行っている。</p> <p>又、昨年に引き続き、有識者の指導の元、自分たちの保育を客観的に見直す機会として公開保育を行った。</p>
<p>幼稚園の状況を踏まえて中・長期的ビジョンと計画を図る。</p>	<p>今まで理事会や学校関係者評価委員会などで、幼稚園に求められている公的使命、地域社会への貢献として、話し合い検討されてきた長期休暇での預かり保育であるが、今まで人材確保の観点から取り組むことが出来なかったが、2023年度夏季長期休暇より開始することが出来た。保護者のニーズは想像以上に高く、新たに入園した低学年のクラスを中心に1日4～5名の利用となった。さらに保護者のニーズ答えていく為、開催日数や保育時間の拡大を検討していく必要がある。その為にはより良き人材の確保が必須である。</p> <p>開設以来、幼稚園では保護者の手作りお弁当を大切に取り組んできたが、近年、様々な状況に置かれている保護者の負担軽減の為、給食についてこれまで検討してきた。お弁当を希望する方も多いので、選択制のパン給（週2回）とし、5月より取り組みを始めた。</p> <p>保護者のニーズや園児確保・人材確保の観点から車での登園・出勤を希望する方が多いことを踏まえ、駐車場の確保などこれから、検討していく必要がある。</p>
<p>園児獲得</p>	<p>ネット社会となっている現状を踏まえ、新たなホームページを作成した。今まで個人情報保護法の観点で子どもの顔を見せることが出来なかったが、アンケート調査を行い保護</p>

	<p>者の承諾を得て、子どもたちの活動の様子や表情を見ることが出来るホームページを作成した。また、幼稚園での園児の様子をホームページで知らせるだけでなく、幼稚園の存在を知らないご家庭に当園を周知していただく為、親子教室や未就園児クラスの案内を地域にポスティングした。</p>
<p>安全管理</p>	<p>危機管理をより一層徹底し、地震・自然災害等のような事態が生じて、対応できるように日頃の訓練を重ねている。セキュリティ・システム（防犯・防火）の設置。防犯システムの強化・安全対策として、正門の高さ増設工事・防犯壁の設置・牧師館入口のオートロック式施錠工事などを行うなどこれまで行ってきたが、門の出入りにおいて、鍵の施錠など人的に確認が必要なので教師同士が連携を取り安全確保に努めていく。</p> <p>AEDの設置、救命救急の講習会の実施、及び災害非常食の備蓄をした。</p>
<p>保護者のニーズの把握に務め、要望に適切に対応する。</p>	<p>保護者会を中心に機会ある毎に話し合い、意見を聞く。出された意見に対して必要なことは園の考え方を示し、改善すべきことについては改善するように努める。</p>
<p>新型コロナウイルス対応</p>	<p>園児・保護者の検温を毎日行い、体調管理を行う中、玩具・遊具など子どもたちが触れるものの消毒を徹底した。お弁当は密にならないように分散して少人数で食べられるように保育室を確保した。またアクリル板の設置や教師と一緒に食べないようローテーションを組んで対応した（コロナ禍の対応緩和に基づき、教師も一緒に食べる形式に戻した）。保育が停滞しないために、行事や活動内容をすべて見直し、感染対策を行いながら、形態や規模を変更しながらも、可能な限り保育を進めることが出来た。</p> <p>保護者に対して、情報発信を行い、理解と協力をお願いした。</p>

4. 幼稚園評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

2023年度より子ども子育て支援新制度へ移行するという新たな状況の中で、全教職員が本園の設立目的・理念についての共通理解を持つことができるよう努めている。教職員それぞれが与えられた使命を自覚し、互いにモチベーションを高め、子どもたちに仕える心を持ち、共通理解を深めている。それぞれがキリスト教の精神を実践して共同体意識を確立することが出来ている。又、外部の方を招き、公開保育を行うことが出来たことは、準備をしていく過程で自分たちの保育を見直し、考える良い機会となった。このような機会は継続していくことでさらに自分たちや園の保育を見直していくことが出来る機会となる。より良き人材を確保することが困難な状況が続く今、確保した人材を大切に育てることを考え、園として重点的に取り組んでいく必要があると考える。

園児減少による財政難が心配され2023年度より新制度へ移行することとなったが、それに安心するのではなく、常により良い保育を行い、園児を獲得していくことができるよう、改善できる部分は改善していく必要がある。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
園児募集	<p>少子化時代の中園児募集には大きな努力を要する。本園が存続していくためには、日常の保育のより一層の充実に努め、保護者の理解を得ることが最善の道であり、保護者のニーズに応えるためのさらなる工夫と努力をする。</p> <ul style="list-style-type: none">・預かり保育充実（早朝・長時間・長期休暇）の為、より良き人材を確保する。・お弁当の良さを大切にしながらも、保護者負担の軽減として開始した選択制パン給食がさらに充実していくよう検討をする。・徒歩・自転車での送迎に負担を感じ、バス・車での送迎を希望する方が多くいるので、駐車場の確保など、これから検討していく。・保護者の信頼を獲得し、安心して送り出してくれる園となるため、保育が充実したものとなるよう努める。
安全管理	<p>危機管理をより一層徹底し、地震・自然災害等のような事態が生じても、対応できるように日頃の訓練をさらに重ね、協議、検討する。セキュリティ・システム（防犯・防火）の設置、防犯システムの強化は行っているが、安全対策として出来ることを常に検討していく。</p>

	<p>先が見えない新型コロナ感染症対策として、常に情報を収集し、保護者に協力を得ながら子どもたち・教師の健康を守る。</p> <p>近年、職場において心の問題を抱える事例が増えてきていることを踏まえ、職員の心のケアも重要課題としいく。</p>
子育て支援	<p>親子教室を開催し、親子で遊べる場を提供すると共に、子育てから生じる悩みや苦悩を分かち合えるように、保護者との会話を大切に相談を受け付ける体制を整える。</p> <p>そのためには未就園児クラスの体制を強化する必要があるため、今後、教師の配置や保育内容についても研修・検討を続ける。</p> <p>長期預かり保育を含む預かり保育の充実の為に人材確保と準備を進めていく必要がある。</p>
園に対する保護者のニーズと満足度の把握	<p>子育て中の保護者が必要としているニーズを様々な方法で把握し、現代社会において求められている幼稚園の使命と役割を理解し、奉仕していく精神で、ビジョンを検討する。</p>
より良い人材確保	<p>様々な角度から求人募集を行うが、人材が集まらないことを受け、雇用の弊害となっている日曜勤務に関して検討していく必要がある。また、密に大学と連携を取り、より良き人材を派遣してもらえるように信頼関係を築いていく必要がある。</p> <p>また、採用が難しいことを受け、非常勤なども含め、今いる人材の育成にも力を入れていくことが重要となってくる。</p>

6. 幼稚園関係者の評価

藤ヶ丘幼稚園の教育理念や保育内容については、特に指摘すべき事項はなく妥当であると認められている。昨年に引き続き、外部有識者の指導の元、公開保育を行ったことは、自分たちの保育を客観的に見直し、考える機会となったことは良いことであり、これからも継続してより良い保育を目指していくことが大切である。

新型コロナウイルス感染予防対策は短期的ではなく長期的課題となる可能性が高いため、十分な安全対策を行いつつ、保育が停滞せず、充実したものとなるよう保育を行っていくべきである。しかし、感染が拡大する中、幼稚園の中でクラスターなど発生させることなく、保育を提供できていることは評価して良いと思う。

今後、地域にある歴史ある幼稚園として存在していくために、外部への発信は大切であり、新たに作成したホームページは評価できるものだと思う。併設されている大阪城北教会の協力やホームページ等を通しては発信をさらに行っていく。また、子育て中の保護者が必要としているニーズに応えなければならない時代状況を鑑み、開始した預かり保育や選択制パン給食の充実、送迎負担の軽減など幼稚園存続のために前向きに取り入れるべきことを模索していく必要がある。

また、保護者のニーズに応えていくことは大切であるが、保護者にとって信頼できる幼稚園となることが一番大切であり、その為の努力は必要であると思う。

また、幼稚園への就職希望の学生が減っている中で、より良き保育を行うため人材確保は必須である。働く教師の雇用条件が少しでも良くなるように様々な検討が必要となってくるのではないかと。そして、人材確保が難しい状況であるからこそ、獲得した人材を当園の保育理念にあった教員となるよう育成していくための組織強化も行なっていくべきである。

7. 学校関係者委員会名簿

朝川 誠 (理事)	上島成也 (評議員)	岡山 佐江 (卒園児)
三宅 千恵子 (園児関係者)	東島 美穂 (地域住民)	

8. 財務状況

公認会計士、監査により適正に運営されていると認められている。

9. 公開保育

日 時：2023年2月15日（水）

実地場所：藤ヶ丘幼稚園 ちゅうりっぷ組（4歳児）

外部有識者：広木克行（ひろきかつゆき）氏（神戸大学名誉教授）

テーマ：「共に考え、心と力を合わせる楽しさを体感し、協同性の芽生えを大切に育む」

ねらい：

- ・これまで経験してきた様なステップの中から、何を当日したいのか、自分なりに考えてみる。
- ・同じ役の人たちと、何がしたいのかを言い合ったりして、自分の思いを伝えたり、友だちは何がしたいと思っているかを知る。
- ・違う意見やたくさんの意見の中から、どうやって2つ決めるのか考えてみる。
- ・同じ役のグループの中で、誰かが取り仕切ったり、まとめたりしながら、みんなで2つ決めようとする。
- ・決めたリズムステップを取り入れて、心を躍らせながらオペレッタを実践する中で心や力を合わせる連帯感や充実感、心強さを肌で感じる。

活動：①グループ毎に再度登場時のリズムステップを相談して決める。

②決めたステップも取り入れて、オペレッタを楽しむ。